

版權表録

164
1058

日蓮宗非佛教

020035-000-7

特15-257

日蓮宗非仏教演説会

高木 顕明/述

M27.8

ABH-0230



日蓮宗非佛教演說會

愛知縣西春日井郡平田村番外

辨士 高木顯明
筆記者 白井禿

一開會之趣意

私は今回の會主高木顯明であり升愛知縣名古屋の者て御座ます。
今回この京都市の諸君に相見ゆるの榮光を得ましたは辯士私には
非常の幸福であります。何んとなれば此の京都市は昔へ桓武天
皇の都と此の地に移し給ひしより即ち今日に至るまで我大日本帝
國の首府として今も現に宮城を見つゝあるの勝地であります。殊
に我々佛教信者は尙ほ一層此の京都市を尊勝の地として此の所に

至り此の地の諸君に相関するの榮光を喜ぶのは他に非ず傳教大師の比叡山を開き給ひしより各宗の本山を多く此の京都にありと申して過言てありますまい。殊に各宗の學者の此の京都に集合しつゝあると云ふ程の京都市に於て今日此の演說會を開き來會の諸君の御聽察をわつらわすの予の欣喜是れにすぎたるはありませぬ。依て予の左に示す三言を大憂して初めて諸君と相関するの禮辭と致します

天皇陛下萬歲

佛教萬歲

京都市諸君萬歲

さて私は今回の會主ゆへ愈々開會の趣意を辨し升。明治維新已來外教が入り來りしより我々佛教者の否な私し如き者を佛教者とは申されませぬ佛教信者であり升。各宗聯隊の積任として受たる難

問の云何で御座ました。僧侶不品行の義論であり升の佛教に活力なし信者を指揮する力なしと云義論ですの佛教は學理を知らず愚民を横惑する者なりと云ふ義論で御座ますの。此等はみな以て問題とするに足りませぬ。先づ彼等もし佛教に學者なし學理を知らずと云わんか抑も印度哲學は學理てのありませぬの佛教にはありませぬの又た佛教中何宗に學理のなひと云ふのて。次に佛教は活力なき信者を指揮する力なしと云へ、我國維新已前否な維新已後に於ても宗教の我が國體を保護し我が政治を保助したる者何に者て御座升す佛教者は宜しく其の當を得ませぬてしたの。次の僧侶不品行の義論ですの彼等の品行を論しますれば先づそれ茶目日本の子を産たとの演說の控席で男女相戯れ居たとの葬式の

馬車の中て袖を引たと云ふ様な事斗りてはありませぬ立派に
証據の擧りたる馬車の无届やら人力車の无鑑札やら法律の罪人と
して許さへつらざる不徳義なる事は宗教者の我々より既に在朝在
野の政治家の新聞に演説にやめましく云いました事も御座ました
てしよ。去れば如斯の問題は我々より返て彼等に其のせめのあ
る所よして佛教信者の聯隊の積任とする程の問題にはなりません
。唯た我々の各宗聯合して積任を負ふべき問題は大乘非佛説と
り升又た佛教嚴世教であり升爾し此等の義論も今は其の影たにも
見せませぬ。爾れへ今日宗教社會は云何なる時であり升私しを即
ち比較宗教の時代であるふと信して居り升。去れば夫の比較
宗教の今日に何んで日蓮宗の如き邪宗を佛教として許して置くの

て御座ましよ。若し今日にして彼等日徒を佛教已外へほり出さざ
れへ他日必ず意外の害毒を我が佛教に蒙らしむる事あるハ彼等の
教祖とする日蓮の書の内ちに明かに顯して居りまじ。彼等日蓮の
徒弟若し宗祖日蓮の規律を破ると云ハ止なん日蓮の教則を守ら
すと云ハ止なん而れへ第一に日蓮宗と云ふ事を止めよ若し又た
日蓮の徒弟日蓮の書物を信し日蓮の規律を守るとなれば非佛教た
る事ハ覆ふへつらざるの義論であり升。近來清水梁山と云へる日
徒ハ日蓮本宗教會を組織して四ヶの格言を成立せんと種々に運動
を試みつゝあるのてをあります。又た立正安國會を成立したる田
中智學ハ該宗を出て、安國會を組織したる者は夫の當時日蓮宗の
管長たる荒井日察氏の四ヶの格言を停止したるによると云ふ事ハ

異論のあり升まいの安國會の御覽の通り今尙ほ四ヶの格言を主張して運動しつゝあるの御座升。予の若し日蓮の書を信ずるとなれば祖先傳來的の柔弱なる日蓮宗より彼等或の安國會なり日蓮本宗教會なりは日蓮の祖意に叶ひ日蓮宗の眞面目て有るふと思われ升。去れは比較宗教の今日に彼等如き者共の佛教として許し置ゆるなれは我々の信ずる所の佛教各宗の頭の上に云何なる大弊害を來たすも知るべからざる事御座やしよ。既に宗教大會へ向て日徒より差出したる書面の如きは云何てありました。予の元來聯合の運動を喜へんのであります殊に日蓮宗の如き謗法邪見の輩と手を引て運動するの云何なる誤解であるふやと不審に堪へざる所す彼の日蓮宗の邪教邪宗たる事は何れ本論に入れ

微細に義論するの考へて有り外。我々の先日名古屋に於て此の日蓮宗非佛教の演説會を試みましたる其のときに對論者あり難して云くす佛教に既に耶蘇教と云ふ大敵をひかへ又た近來の愚夫愚婦の玩弄物では云へ天理教會なる者を眼前にひかへなら此等の者を相ひ攻むべきの必用あるを不問兄弟相ひ争ふの笑ひある日蓮宗を攻撃するの必用あるへし。其時予等は佛説を以て答へました即ち法花の説時内なる蓮花面經には佛教滅法の事を説て耶蘇教や天理教様なる外教者の傷を付け得らるゝ佛教に非らず唯た惡魔ありて惡僧ありて我の佛教を信ると見せて遂に我の佛教を滅法すとあきらかに御説きなされてあり外即ち其の惡僧とは日蓮を初め其の徒弟の事に御座ましよ。眞に彼等は佛教を信する

と似ひて佛教を破ふる獅子身中の虫であり外斯の事を云われたる眞宗の祖師親鸞聖人は御和讃の中に造悪このむ我の弟子の邪見放逸さるりにて末世に我の法破すへしと蓮花面經に説き玉ふと佛祖の明斷眞に與一の要を射るゝ如してしよ。若し万の一日蓮宗の佛教として行へるゝかれハ八家九宗のみな非佛教て御座い外。今了りに臨み外して一言致し置きまはる私しの法華經を破すのてハありません法華宗即ち天台宗を破るのては御座ません即ち穢多の子日蓮の教祖として弘通したる日蓮宗を以て非佛教てあると申すのてあり升。何んに致せ比較宗教の今日に各宗を罵詈暴言する謗法邪見の彼等と我々の信する各宗佛教との炭雪相いれざる事なれを我々の遠慮惠釋なくどし々々と佛教以外へほり出し

て仕舞の佛祖に對するの忠節なりと思ふの儘に今日此會を開きたるのてあり外

一日蓮宗非佛教

さて愈々本論に入りて義論を試み外す。私しの此の演題に六合釋をいけますと先づ日蓮の宗の依主得名、日蓮宗の非佛教の依主得名、二重の依主釋と日蓮宗と佛教との相違釋、日蓮宗即非佛教の持業釋等てあります。此はたゞ論題を解釋するに止りたる迄の事てあり外。さて此の演題を辨し外には對論者のある事なれば普通一般の議論への對論者の中々承知を致しますまい故何んても充分

に論せぬはなりません。私共今日まで辯して居ります種々の演題を設けて其の演題に付て辯して居ります今日ハ一ツの演題の上に於て科段を分けて論ずるの考へて御座います。そこで此の演題を三段に分けまゝ第一には宗祖日蓮の行爲を論し及び日蓮宗の履歴を辨す第二には日蓮日徒即ち日蓮宗の拆伏の修行として談ずる四ヶの格言を論せん第三には彼等の立論とする唱題成佛を論し及びその七字題目を論すへし。己上三科段を辯しますれハ日蓮宗の非佛教なる事は鏡を見るよりも明めて御座ました。さて第一の宗祖日蓮の行爲を論し及び日蓮宗の履歴を辯します抑々宗祖日蓮ハ即ち房州長狹郡の穢多團五郎の子であり外す母ハ漁夫の下女ておちやうと申しまして日蓮の幼名を善吉と申せました十二

歳の時ハ清澄寺道善の弟子となり十八歳に至りて出家致しました。建長の五年三月廿八日初めて南无妙法蓮華經を唱へ唱題成佛の義論を押し立てたる事ハ御異論ハありません。又も彼等の拆伏の修行として念佛无間禪天魔眞言亡國律國賊の四ヶの格言を立て諸宗を罵詈暴言したる事は今日徒の處依とする日蓮の書中に明めて御座ます。否な日蓮は唯々に諸宗を罵詈する耳てはなく諸經を破りたる大罪人てあります。彼の日蓮は身延の山に登りて開宗立教のみぎり鹿をへいて皮を着たりと云いまた是れハ即ち彼れの穢多の子なる故に出家して佛門に入るも尙ほその父の業を捨てやらすしてゆる處行となしたる事は明めて御座ます。日蓮は我れ法華の行者なれば忽ちに國にしろしを見せ給へと祈禱の如き言論を

書きたるの即ち我國に事とあれしと國を擧げて禱りとなしたる
惡魔邪見の大罪人である云はざるを得んす。聖德太子の憲法
にハ君ハ天に乗り臣は地に乗り地若し天を覆ハ必す破るハしと
示されたるにも係ハらず日蓮ハ常帝の父母なり日本國の棟梁なり
闍浮提第一の法華の行者なりと帝位を輕しめ奉り佛祖をあたとり
たるハ必竟憲法違反の隨獄の罪人たる事明ハてありましょ。一。
彼れハ撰時鈔には上一人より下萬民に至るまで法華を信せざる者
ハ法謗邪見の者しやと云て畏き御邊之雲井にまて己れの辟見を
もつへりみず義論を及し奉りたるハ實に言語同斷沙汰の限りにあ
らすてましょ。御覽なさい日蓮は王宮々城の燒失したりと聞て日
本國の亡ふるしるしちやと喜ひ入ると云いましたの惡魔とも蛇蝎

とも名の附け様のなひ大惡僧て即ち獅子身中の虫には相違ありま
すまい。妙法蓮華經の屬累品には若し衆生ありて信受せざらん者
はまさしに如來の餘の深法のなめに於て示教利喜すハしと佛說明瞭
なり去るにに係ハしらず法華を信せず他經を信する者ハ謗法邪見
の者にて法華の敵と見なし天下に二人りといけつへるのなひ父母た
りとも殺すハしとハ予ハ天に訴へ地をたハひて日蓮及ひ日徒を佛
教己外にほり出さなければならぬと云ふ理由の一ツてあります
。諸君よ私は虚言と云ふのてハありません是れは日蓮ハ弘安四年
南條治郎房へ當てたる書面を御覽下されハる者ハどふして佛敎
と云ふ事ハ出來ます。彼れ日蓮は種々の豫言致しましたのその
内に於ても諸宗の高僧の頸ハを切り諸宗の寺院を燒きハらハ佛や

菩薩の形像をやきすてされへ我が國へ必らず亡ふへしとは何の理由てあり外する。而るに今日の大人君子の多少の情狀ある爲る佛敎以内者の如くに見做して相ひ往來し相ひ訪問せらるゝの流々の涙をばらいて遺憾に堪ある處て御座ます。さて又た日蓮宗の履歴を辯しますれ種の義論のあります故甚た長談になりまして當底辯し盡し事は出来ません依て私は著しき書き物を耳朗讀致しまして諸君の御聽察を煩はすの考へてあり外

第一花園天皇の御院宣

近來有一類之僧徒爲諸宗之讐敵禁戒之趣嚴制先畢爾无憚憲章不恐勅命乍居於洛陽結黨於道場引率弟子同朋妄稱法花持者號之自宗飽破佛法天台之所說月氏

之敎相豈如斯乎雖似展轉隨喜之功能忽犯誹謗正法之罪障以外道之行儀偏表邪惡按本朝之比附爭遁科坐爲國爲法不可不禁宣仰廳衙追劫京都旨院如斯仍而執達如件

延慶二年三月八日

右拜讀し奉る如く御尊慮を惱め奉る程の非佛敎に付ては立派なる履歴を持って居る日蓮宗てあり外。次き安土問答の決果てす日徒より出したる書面に

一此度於江州淨嚴院淨土宗與致宗論負申候事

一向後對他宗一切不可致法難之事

一法花一分之儀可被立置之條忝存候

右之條。於偽儀者。忝日本六十餘州大小神祇大乘妙典三十番神可蒙御罰仍而起請文如件

天正七年五月二十七日

妙覺寺
頂妙寺
久遠寺
本國寺
要法寺
妙滿寺
本能寺
立本寺

妙顯寺
妙蓮寺
本隆寺
本禪寺
妙傳寺

御奉行 管谷九右衛門殿

堀久太郎殿

長谷川お竹殿

又九

合度當宗被立置之儀不可有御座候處御面許忝存候於自
今以后不届之儀申出候者以一行之旨當宗忝可被威御成

敗候其之時毛頭御恨不可申上候此旨可預御披露恐惶謹言

五月廿七日

妙覺寺代日 諦

頂妙寺前住日 銚

久遠寺代日 雄

御奉行衆中

此れても日蓮宗を佛教と云へまはらる。次に又た慶長三年に尾州熱田の日經と江戸増上寺の弟子廓山と問答の決果は日經の死罪に處せられた事もありはしたてしよ。同年十二月家康公の命に依て奉行として池上本門寺外ヶ五ヶ寺へ念住无間の証文を差出すべき

旨を達せられたるに左の如き書面を差上て居ります其書と讀みまされハ

被仰下旨欽承候念佛ヲ申シ地獄へ落ルト云フ名言ハ經釋中ニ先是候住祖師所立候儀候間御前可然様ニ御披露處仰候恐惶謹言

極月十一日

池上日 詔

中山日 述

真間飯高日 感

藤原日 僚

平賀日 悟

御奉行衆中

碑文谷日揚

うこて家康公は尙ほ爲念慶長十四年甲州ノ郡代大久保石見守へ沙汰して本山身延の久遠寺へ念念无間の証文差出すへしと仰せ付られしに是れ亦た前文の如き答へと差し出してあり外又た同時に京都の所目代板倉伊賀守へ沙汰して當地の妙顯寺寂光寺本隆寺要法寺本法寺立本寺本能寺本國寺本滿寺本禪寺妙傳寺妙蓮寺妙滿寺妙覺寺へ同じく四ヶの格言の証文を差し出すへき旨を被澤候しにみな前文同様の无是候と云ふ答へ書と差上て居り外尙ほ嘆願して事済に成りましたのは是れ即ち着々たる事實で天下に異論を咆くへき人はありません。されば念佛无間と云ふ様な事は文証義証の

なき事なるを天下に勧めて回るもの愈々非佛教たる確實の議論でしよ。否な未だ此丈けて非佛教とするの証據充分とは云はれません去れば日蓮宗の折伏の修行として取る義に付いて御咄しを致しますゆゑ私は一人りて御しやへりて致しますすて多少疲勞を覺へました少し休息を致し外

さて日蓮宗非佛教の第貳科彼等日蓮宗の折伏の修行として取る所の四ヶの格言を論します。此は四ヶ共に辯し度く考へ外の中々四宗の意を得て論ずる事の難事です又た順て長談になります殊に辯士私しにしては知り得ません私しは私の信しつゝある念佛に付て念佛无間と云ふ義論を以て彼等の佛教に非ざる事を証明します。

先づ彼れ日蓮宗の念佛に對する難問を擧て見ますれの一には念佛の説時法華以前とし无量義經の四十余年未顯眞實の文を以て爾前の經には无得道なりと云ふの難二には念佛の權教なり法華は實教なりと云ふ事三は念佛は往生はすれ共成佛を許さすと云ふ難四には念佛は未代相應の教に非すと云ふ難五には選釋集の捨閉格抛は謗法罪なりと云ふの難まあり一々此の様な義論に止て居り外は此等の問題は實に一として其の當を得ません。先は法華念佛同時の教なりや否なやと云ふ義論を辯し外に日蓮は觀經を爾前の經として四十余年未顯眞實ではらゝ落さんと致してあります是れ即ち日蓮宗を邪法であるとして云一の証據であります。觀經を爾前の經と云ふ事は何の証據もあり外彼れ云く即ち觀經の文に隨順調達惡

友之教と御説なされたるを以て増一阿含經や報恩經に依るに法華已前に提婆は入滅したり阿闍世の惡逆爾前に入滅したる提婆の教へに隨順する逆惡なれば即ち爾前の經たる事明なりと。是はしたりてす此の問ひ不足言と謂つゝしてす日蓮若し多少他經の免を取るとなれば自分自ら爾前の經の无得道なり无益なりと捨てたる御經を取らずともなせに法華同時の涅槃經を取らないので御座ましよ。此れを票せんに彼れを助けて云はんも日蓮の淺學无識にして涅槃經大論勢至經等を知らすと云ふへし子の票するときは是れ即ち日蓮の惡魔であると云ふ一の証據であります彼れの書中に隨分涅槃經も引てあり外大論も引てあり外それによる愚論とはくは唯た觀經に傷附けんとする謗法罪はまぬぬるゝ事は出來外ま

い。抑も是れに解通を與へますれば觀經に隨順調達惡友之教とあるに依て提婆の阿闍世に就き守りて居りて父の王掠を殺し得るまで進めて居たと云ふ証文になりませぬ馬鹿を云ふのも程のあり升。去れへとて阿闍世の逆害をわめしたるは是れ亦た提婆の教へに依ると云ふ事へ彼此共に異論のありませぬ唯た父の王頻婆娑羅を殺し得るまで提婆の就き守りて居たと云ふ事は御座升まい大王頻婆娑羅之喪せざる已前に提婆は既に入滅して居り升爾れとも彼等の一類兩行等の惡臣の常に阿闍世に惡逆を進めて居り升彼の証據は彼れ日蓮も法華同時の經としは許す處の涅槃經加葉菩薩品に云ふてす善見太子父の喪と見るを見了て正に悔心を生ず兩行大臣又た種々の惡邪の法を以てしめも爲に是れを説く大王一切の行業すへて

つみある事なし何んか故そ今悔心を生ずるやと耆婆又たまふさく大王正に知るへし如是の業は罪二重を兼ね一には父王を殺害し二には須陀洹を殺するくの如き罪の佛をのうきて更によく除滅する者ならん善見王のたまわく如來は清淨にして穢惡ある事なし我等罪人いんを見ゆる事を得んと善男子我れ此の事を知るか故に阿難に告ぐ三月とすき了て我れ正に涅槃をへしと善見きおわりて則ち我の處ろにきたる我れ爲に法を説くに重罪うすくなることを得て无根の善とすると已上

彼れ等日蓮日徒の觀經を爾前の經として无量義經の四十余年末顯眞實の文を以てのらひ落すの考へてする如斯の面文分明なる証文を出せの念佛法花同時の經たる事ハ明めてしよ。又た无量義經

の四十余年未顯眞實の文の爾前に得道なしと云ふ事になるとは抑も云何なる辟見てあり外彼の經に衆生の性欲不同なる故に種々に法を説く故に衆生の得道差別ありと文面に既に爾前諸經に得道ある事を示し又法を水に喩へたり大師は妙の字を釋するにこの妙と名の妙と妙義ことなる事なしと云へり此れ先づ置て不問念佛法華同時の教なりと云ふ決着を致し外。處て彼等日徒のやめら太子と王との義論を持ち出し外の中々鐵面皮す夫れへめふ云ふ義論す彼等の云升には我の觀經には有一太子名阿闍世とあり升又た彼の法華經序品には聽衆に列座して阿闍世王とあり外此に依て觀經の説時は阿闍世の太子の時分にして夫の説時法華以前にあり法華は阿闍世の大王と成りたる後ち之時説き玉ふ經なれハ

即ち法華の説時后ちなるへしと是れ亦た不足言す此の太子と王との如きは譯人の意樂と云ふ者す彼等も若し處難を試んとなれハ唯た一文耳を擧て論すると云ふを義論になりません觀經に既に阿闍世の事を王とも大王とも云てあり外又た次上に讀みました涅槃經の如きは法華觀經等の后をし御説法なれとも善見太子と示してあり外爾るに彼等ハ此の涅槃經を涅槃當代の事てなひと申し外すめろんな小言を云い外と返て法華經にまて傷め付き外此等の解通は見易き事教一寸御咄し致し外。彼等若し觀經を爾前の經として觀經の説時に阿闍世の惡逆をおひし后ちに法華を聞たと云ハ涅槃經の梵行品に示す阿闍世王若者婆の言はに隨順せすハ來月七日に必定して命終し阿鼻地獄に墮せしこの故に近因と善友にし

すとあり外す大乘无上の妙法たる法華を聞き乍ら何の罪ありて阿鼻地獄に墮すへしと申されましたのてしよー法華を聞ても功德のないと云ふのてすの既に前に引たる涅槃經の加葉菩薩品の文面には三月をすぎ了りて我れ正に涅槃をへしと御告なざるゝのときに當て阿闍世の言へとして我等罪人云何の見ゆる事を得んとは申しましたの法華經の序品に列座しなむら斯様の言へ云へまじめ。

此へ即ちこふてす法華經の序品に聽衆の席につらなりたりと云へとも未だ法華の正宗を聞めざる前に尙ほ惡友兩行等の教へを聞て常々佛所に詣せず遂に惡逆をおひして父をして死に至らしめたる后ち即ち悔心を生したるは涅槃經の時なり佛の御言に我れ三月をすぎて正に涅槃すへしと此れを聞きて阿闍世直に佛の所とに至る

是の法華經序品以來初めて佛に見ゆるの時ふり爾れは闍王の逆惡法華の序品以后なる事へ明らめてしよー阿闍世の惡逆法華の正宗説時中となればその時の觀經の説時故に法華念佛同時の經たる事明めて御座ましよー。論る程の價直のなひ義論てす捲れをやめましく云ふのへ即ち日蓮宗の非佛教たる一の証據てす。此の法華念佛同時の經なりや否なやと云ふ義論も若し他經の説を取るとなれへ勢至經普見律大論等に明かに文面に顯して居り升次の念佛の權教なり法華は實教なりと云ふ論題てすの是れへ必竟彼等へ他經を知らざるの失せ云へんの既に淨土の大經には惠以眞實之利とあり升又た究竟一乘至于彼岸とあります又た説微妙法とも説てあり升こんな御經をとふして无得道の御經權教てある小乘

てあると見へましょー爾し惡魔の見たなれば或は權教である无得道である云ふも知れません。法華の不輕品には若我於宿世不受持讀誦此經為人演說不能疾得阿耨多羅三藐三菩提と云ひ我の淨土の阿彌陀經には當知我亦五濁惡世行此難事得阿耨多羅三藐三菩提と云へり共に此れ釋尊久遠の本行をとくと云へは彼此何う勝劣あらん既に天台の釋には觀音は即ち妙法の体なりと云へり觀音は即ち彌陀の慈悲の一門なりとて此のみたの慈悲より顯れたる觀音の妙法の体と云へは彌陀又た妙法の体なりと云ふ事明かな咄してしよー。念佛を若し權教なり法華は即ち實教なりと決着せんる法華に於て隨一の大師天台の何に故に死に臨みて西方の往生を願ひ舛た天台の西方往生高僧傳佛祖統記別傳等に出てあり升。とて

次の往生と成佛と同なりや異なりやと云ふを答へますれば往生即成佛す往生と成佛と相違のあるへき筈はありません法華の提婆達多品には八才の竜女力南方无苦世界へ往生したりと説てあり舛是れは竜女成佛と云へません爾し若し我々の願ふ處の淨土の有漏不淨の世界なれば或は其の往生を取て直に成佛と云ふへいらすてす是れ當れりてす豈計らん无量壽經には一乘を究竟して彼岸に至ると云へり天親菩薩の淨土論に大乘善根界との玉ふ又た智論には一乘清淨无量壽世界とも示し置れたりされは有漏清淨の淨土に往生する者何う成佛を許さざるを得んや。如是論し來るも尙ほ彼等は鐵面故云へ升てす彌陀の淨土は一乘清淨の土に非す何となれば凡聖同居の土なるが故に既に无量壽經の説相と云ひ觀經の

説相と云い皆な是れ三乗の機類を説く我の法華に明すところの離
 苦世界とは大に其の趣きを異にすや先闇失縛の難問を起し升呼々
 虚言の甚しきかな三乗の機類を説くよ依て凡聖同居の土として有
 漏不浄の世界なりと云へ彌陀の浄土のみ豈にしめらんや法華の
 花光如來の浄土も亦た復た如是ならん爾れば即ち彼等の浄土の御
 經にきづつけんとして遂に自分の尊信する法華經にまて難問を試
 むるの大罪人て御座ましよ。御覽下され彼の法華經の比喻品に
 は花光如來十二劫をすきて堅滿菩薩に阿耨多羅三藐三菩提の記を
 さつけもろくの比丘に告げて曰く此の堅滿菩薩つきに正さに作
 佛すへし號して花足安行多陀阿訶度阿羅訶三藐三佛陀と云へんと
 あり升法華立替には此の下に於て三乗ありと雖とも菩薩の類おほ

き故に大寶と云ふと已上爾れば即ち經に比丘とあり釋に有三乗
 と云ふは是れをも彼等は凡聖同居の土として有漏不浄の世界と云
 ふ。すへて日蓮及び日徒は經を拜見するに唯た破壞的に耳見て
 居り升こんな者を佛敎として許して置たなれ何に事を造りいた
 すおも知り得ません私しは將來に諸君の供養を得て充分に運動の
 致し度く考て居り外。諸君よ御覽の通り私しは身体が甚た弱劣て
 御座外故又た疲勞を覺へました少し休息を致し外
 諸君浄土の大无量壽經には但因順餘方故有天人之名とあります又
 たあみた經には舍利弗汝勿謂此鳥實是罪報處生所以者何彼佛國土
 无三惡趣とありますとそこを和賛には見眞大師の安樂聲聞菩薩衆人
 天智惠ほめらぬに身相莊嚴みなおなし他方に順して名をばらぬと

申されました此のどふしてどふして凡聖同居の土であります此れ
 ても往生と成佛と同一でないを申しますの愈々日蓮宗は非佛教で
 御座ましょー否なまたく証據充分との云われません。次の念佛
 は末代相應を經に非すと云ふ難問です是れは尤も愚論です是れ
 は彼等の處難と云いますれば大經の異譯に過度人道經と云ふの
 り外其の御經には般泥洹の后ち經道止住する事千歳々々の后ち
 斷絶せん獨り此經を止むる事百歳ならんと示してあり外そこで彼
 等は此の文を以て淨土の經法は千百年の時に既に斷絶してあるな
 りそれを今に皈依し信向するは誤れるなりと云ふ不道理なる
 事を云て居り外眞宗の祖師親鸞聖人は異譯不祥として傍依とあそ
 ひし異譯之御經を直に取て正依となされんは深き御意趣のある事

て御座ましょー今此の人道經も日蓮及日徒之如く謗法的の考へ
 ど以つて拜むなれへ或は千百年に滅法にするを見るやも不知へ
 し爾し乍ら異譯不祥なるの故に此の難を受けすと云ふには非らず
 唯た予は聖人の御賢識て仰くに付て一言致し置くのてす。處此
 の難を或は當らざるに非らずす或る御經に經道斷滅の事を説て
 如來滅後一千年より小乘教滅法するとあり外す又た既に毘曇宗俱
 舍宗等の如きは其の宗名を止むと云へとも又實に於て今早や滅盡
 したるの如してすうこて彼等の斯の如き事を云い出すのてす然し
 乍らすへて御經を拜むと云ふ者は千年とあるに依て必ず千年て
 ると云て九百九十九年のすき一千年を了り此御經の滅盡したと
 云ふ様なうんな淺きはいな事ではありますまい。今此の人道經に

しても又た他の御經にしても千年とありたとして必ず實の千年である
 と見るは誤りてす俱舍宗等の滅盡したる如く見ゆる故小乗教
 の滅盡したりと云ふ事を云へますまい即ち印度以西の國に現に行
 はれてたる佛教を小乘經耳しやと申します或は一部二部の缺亡は
 あれともたとへ小乘經たりと云へとも中々斷絶したりと云はるゝ
 様な今日にはありますまい他經の説は今早や論するの限りに非ら
 す此の人道經の文を擧げて論せんに千年と示し玉ひたるは千は即
 ち満數を示したる者なり故に同本にして正依の經とする大无量壽
 經には當來之世經道滅盡獨留此經止住百歲となりて更に千年とも
 二千年とも數の擧てありません去れ何ぞ千年とあるに依て必ず
 實の千年しやと云ふの眞に經意を得たりとは云へますまい。若

し遠く讓て論せんに彼等の云ふ如くなれば千百年に淨土の經は
 斷絶して居らねならんに其の宗名斗り止まるのてなく今を盛り
 に弘り玉ふは即ち是れ現量に於て事實に於て相違なりと云ふ事明
 めに證據とする程との力をなへております。唯々彼等の輩の野
 心を以て我々の信する處の御經に傷が付けたい佛説が破りたいと
 それ耳考へて居る惡魔邪見の所爲としお思われません是れ即ち誹
 謗正法の墮獄の餓鬼であり外是れ即ち日蓮宗非佛教の一の證據と
 あり外。私の考へますと念佛に依て淨土に往生すべしと云ふ御教へ
 の末代相應の經と云ふ事ハ彼等の處依とする法華經に於て明めて
 すの法華經の藥王菩薩本師品にハ后々五百歲中廣宣流布とあり
 ます是れは一品を擧て論しますれば即ち一經中ノ流通分てあり外

此の一品には何事と御明しなされしやと云へ、即ち末代相應の
 教てあり外爾し法花經の修行を以て立つ時はその説の如く立派に
 戒行もせねはなりませんされは其の如説に修行して証果は云何と
 云へは藥王品の骨目は若如來滅后々五百歲中若有女人聞是經典如
 說修行於此命終即往安樂世界阿彌陀佛大菩薩衆圍繞住處生蓮花中
 寶座之上の文てありましょ。又た后々五百歲中廣宣流布の文と
 一文に於て論しますれば經の當相と云い又た天台の釋と云ふ藥王
 品一品の屬累となりて居り舛去れば其の藥王品一品の正宗后々五
 百歲に廣宣流布とへき法と云へは文段なめしと云へとも示教幽立
 かりと云へとも如説に修行して命も終て安樂世界の阿彌陀佛國
 に往生するにありましょ。后々五百歲中若有女人と云ひ后々五

百歲中廣宣流布と云い末代相應の經と云へは往生淨土にきまりき
 けて居り舛。爾れば法花經によるも三部經に依るも免に角に安樂
 世界に往生するも末法相應の經と云ふ事今の經に於て銘文ありて
 明めて處て同し往生淨土を願ふ者なれば法華の難行の修行より
 淨土の易行の修行の復た末代今日の根機に叶ふて居り舛根機に叶
 う叶はんより淨土の阿彌陀如來の淨土となれば念佛の佛の本願に
 叶ひたる行てあり舛是の故の善導法然の廢立と云ふ事を立て、の
 御勸めてす是れ論題以外に渡る故へ先づ置て不論としましよ
 斯の如きの銘文ある法華經に依て立つ日蓮宗の眞實に此の經意
 と得たりと云へ升の眞實此の法華經を守護する者て御座ましょめ
 念佛無間杯との虚言にも云へた咄して御座ません而るに彼れ日蓮

ハ立派に書物に書てあるとハ非佛教なりと云ハざるを得ンすし
 よ。又た次ぎの法然聖人の撰擇集に捨閉捨抛の四字を置したる
 を以て謗法罪しやと云い舛た此の選擇集をとふして拜たなれば
 謗法の書物と見えましょ一已に選擇集には華嚴法華の往生を許し
 てあり舛殊に又た廢立を談するや云へとも二種の勝法の中に於て
 と充分に尊崇したる名目と付て御示してす決して日蓮の様な不律
 不法の否な邪見放逸なる事を仰せられたのはありません唯た我
 々の宗祖は善導にもせよ法然にもせよ願求淨土の行者に取てハ諸
 善萬行は非本願の行にして佛教に相應せず念佛の一行は願彼佛願
 の故に佛教と相應す故に廢立を立られたる者なれハ決して彼等の
 所難の如く諸經諸宗を罵詈暴言したるものにはあらざる處し是れ即

ち大原の問答に於て諸宗の學者の許す處にして誰の異論を存すへ
 きや若し廢立を以て謗法と云ふされハ大經の一向專念无量壽佛の
 文もあみた經の執持名號一心不乱の文もみな是れ謗法と云ふへき
 や尙ほ他經の廢立を云ハ一先つ彼等の所依とする法華經に云ふ但
 樂受持大乘妙典不受餘經一句一偈も是れ亦た傍法罪なるへきや華
 嚴經の文珠の法ハ常に爾り法王は唯た一法なり一切无碍の人一道
 より生死を出つ一切諸佛の身ハ唯た是一法身なり等の文是れも亦
 た謗法と云ふ歟其の外楞嚴經般若經占察經心地觀經法句譬喻經般
 舟三昧經等もみな廢立の言を置れたるの謗法なりと云ふ事を得る
 是れても彼等は經を傷つ付けぬと思て居りましょ。全体法
 華經に依る眞實の行者なれハ安樂行に住し忍に安住して他經他宗

を誹るべき筈のなきを日蓮の无闇に他經を破り他宗を誹るのやつ
 ばし法華を信すると見せて佛經を破らんとする大惡无道の大罪人
 てす其の大罪人を教祖として跡を續きたる日徒のやあらとふして
 佛敎者なりと云ふ事の出來す諸君よ希くの宜しく我等の意を瞭し
 て早く日蓮宗を佛敎已外にほりいだし比較宗敎の今日に外敎信者
 より見るも邪見惡魔の者共の佛敎以内にあるべき事なきを証らし
 めよ又た彼等日徒も祖先傳來的宗敎の考へを止め直に我の門下に
 來て學ふへし或ハ異論あれはすみやかに反對を試みよ爾らされは
 誤宗中の死人なるへし予歟破邪を以て立ち天下に運動せんとす
 る者は即ち顯正せんと欲すれはなり爾らハ外敎の信者たりとも是
 れと(三部經)を上げて學へんと欲すれは何ぞ惡まん又た日蓮

の後弟たりと云へ共是れをせめんや。或る時ハ天理敎の愚を笑ひ
 或る時を外敎の理に違するを説き或ひは日蓮の佛敎にあらざる事
 をせむるも蓋し是れ本願の大道理に取せしめん爲なり依て不肖を
 顧みず愚辨を云はず今日諸君の御聽察を煩はす所なり先つ

日蓮宗非佛敎第三科段ハ彼等が立論たる唱題成佛の義を辨します
 全体唱題に依て成佛すると云ふは云何なる人々の修行するの咄し
 てすの云何なる作法のあるのてすの我の淨土の觀經にも已に十二
 部經の名を賛するを聞けば千劫の極重の惡業を除却とあれば大
 乘妙典の首題を稱揚賛嘆するを聞かん者或は首題の名字を稱へん
 者何ぞ功德ならんや爾れとも未代の凡夫罪業の者共の唱題に依

て成佛するとは更に其の文を見ません即ち法華經の陀羅尼品に法華の名を執持する者と守護するとの福德无量とも御説きなされたれとも唱題成佛とするの証文に成りません法華の法塔品に能於來世讀持此經是真佛子住淳善地とあり又た神力品に於我滅度后應受持此經是人佛道決定无有疑とあり又た法師品には受持讀誦解説書寫妙法蓮華經乃至於未來世當得作佛等とあれとも此等の文を以て彼れ日蓮の如き邪見放逸の惡魔外道が唱題に依て成佛するの証文には成り外まい。先づ讀持此經と執持法華名と受持讀誦解説書寫とあるを唱題の事しやと見るはどふした譯けてすの喩へ唱題の事と致しよしても彼の法華經には愚痴人中莫説此經とあり外又た法華經の比喻品には此法華經爲深智説淺識聞之迷惑不解

と説けり又た比喻品には凡夫淺識深着五欲聞不能解亦勿爲説と云へり又た法師品の如き現文分明に法華を説めん者ハ衣座室の法軌に住すへしと示されたり何う末代の惡人无戒の女人の持つへき行ふらんや既に法華經の安樂行品には欲説是經當安住四法等と説てありて此の法華を説めん者此の法華を修せし者は四種の安樂行に住すへしてす四種の安樂行とは一には身安樂二には口安樂三には行安樂四には誓願安樂とあり外日蓮若し法華の行者なれハ四種安樂に住しましたの竜の口の難と云い(建長寺の命乞ひ)佐渡の流罪と云い身体に刃物のきつを受たる杯是れみな証據とするに足る咄してしよ。爾し乍ら祖師たりと雖とも日蓮ハ即ち能弘の人てす日蓮宗は處弘の教てす日蓮に咎失ありと雖とも何ぞ日蓮宗を

佛教に非らずとは云へぬらんと爾とハ即ち唱題成佛は日蓮宗の立論として一此の唱題成佛を論ずるに於て彼等ハ云へる義彼等の信するの義否な信しつゝあるの義ハ佛説に不叶となれば徹頭徹尾佛教として許さへぬらざる者共してしよ一是てころ愈々日蓮宗非佛教の証據充分と成て來ました

抑も日蓮宗ハ天台を見る事去年の曆の如しと云ふは即ち天台宗は理を談するとなし彼等ハ立論ハ事を談すると成す依て天台と日蓮とハ同一一念三千を談すと雖とも事理の相違に依て天台を見る事去年の曆の如しと廢立を立て居り外す。處ハ彼の宗の尤も信すへき者として居る祖書には彼れ等は十界の漫荼羅を以て本尊と立て唱題を以て正行とし此の唱題を信する一念を戒檀とて彼れ日蓮

の徒弟は云い外てす其の十界は本覺の當体てす唱題は本覺の名てすと即ち本覺の体を以て本覺の名に販し本覺の名を以て本覺の体を顯す是れハ唱題の大功用しやと云い外た是れを信とるを以て戒檀として更に修行を要する事なしと去れハ即ち事を談すると云い乍ら理上の佛を立て理上の本覺を示し理上の成佛を談す是れ不律不法何う論すへき限りならんや。彼等日徒ハ若し事を談するに於て十界を本覺の當体と成し得る事ハ出來ます事ハ於て佛界に融即とる事を得ます事ハ又たたとハ佛界に融即とる事を得ると云ふも凡夫の眼を以て佛の境界を見る事ハ出來ます事ハ夫れを彼れ等ハ我れハ得たり我ハ成佛したりと云い外ハ讓て論しますにたとハ佛界に融即する事を得たり即身成佛なり我れ是れ佛なりと云ふも教祖

日蓮にちれんてすら四ヶの格言がくげんの咎とがとなり諸の罪狀ざいじょうを受けたる杯なべへ云何いかんて
と建長寺けんちやうじへの御禮狀ごらいじやうみくるしついでに御座ございませんの是れ即ち宗祖しゆそ
日蓮にちれんも佛界ぶつがいに融即ゆうじやくする事ことを得えざる証據しやうこせず。尙ほ進しんて論ろんすれば
佛敎ぶつぎやうを破りたる惡魔外道あくまがうだうの証據しやうことするも敢あやて過言くわげんてありますまい
次に又た彼等かれらの日夜にちやに唱のたまふる處ところの南无なむ妙法蓮華經めうぼうれんげきやうの七字連續しちじれんぞくの
語ことてあり外または是の七字しちじを以て彼れ日蓮宗にちれんしゆは本尊ほんそんとし正行せうぎやうとし戒檀けいたん
と致いたし升まする其の七字連續しちじれんぞくの佛語ぶつごは一切經中何れいっさいきやうちゅうなれに出いりや予よへ書か
目並めなみに銘文めいもんを聞きかん若し七字連續しちじれんぞくの佛語ぶつご一切經中いっさいきやうちゅうになしとなれば
日蓮宗にちれんしゆの本尊ほんそん日蓮宗にちれんしゆの戒檀けいたん日蓮宗にちれんしゆの正行せうぎやうみな以て佛說ぶつせつになし釋尊しやくそん
の金言きんげんに絶たてなき言ごんげんを以て本尊ほんそんとし正行せうぎやうとし戒檀けいたんとして拆伏しやくふくの修しゆ
行ぎやうとせし者否ものいな謗法邪見ぼうぼうじやくけんの處行ところぎやうある者豈ものあに佛敎ぶつぎやうと許ゆるす事ことを得えんや

。又た日蓮にちれんは妙法蓮華經めうぼうれんげきやうの梵語ぼんごを示しめすに付つきて眞言宗しんごんしゆの鐵塔相承てつとうさうじやうの
陀羅尼だらにちやと云いて居おり升ますの陀羅尼だらになれへ何なんで翻譯ほんやくの語ごを稱なへるの
てす是れ即ち自語相違じごさうゐの失しつあり升ます。又た日蓮者にちれん妙法蓮華經めうぼうれんげきやうの題だい
目めの上に南无なむの二字にじを置おたと云いてあり升ますの日蓮にちれんを始はめ該宗がいしゆの人々ひとく
の妙法蓮華經めうぼうれんげきやうに皈依がいし皈命きみやうするに依より始はめて成就じゆじゆする七字連續しちじれんぞくの
語ごを以て本尊ほんそんとし正行せうぎやうとし戒檀けいたんとして即身成佛じやくしんじふぶつ杯なべと談だんするは必竟ひつじやう
自分勝手の自宗じぶんかつてのじしゆにして到底佛說たいていぶつせつに相應さうおうしたりと云いへらして御座ござい
ましよ。又た妙法蓮華經めうぼうれんげきやうの上に南无なむの二字にじを置おたと云いへらして其人そのひと
々々の皈依皈命さいがいきみやうに淺深せんしんあるへし從したがて本尊正行戒檀ほんそんせうぎやうけいたんにも淺深せんしんあるへ
し成佛得道じふぶつとくだうも差別さべつあるへし法花ほつけの得益差別とくえきさべつありと云いへらして愈々いよく謗ぼう
法罪ぼうざいなる事明ことあきめてす斯かくの如ごとく論ろんすれに證據しやうこ充分じゆうぶんて御座ございましと一判いっはん

決は諸君の御明斷にまのすのてす宜しく公平の御裁判に預り度いです

諸君私は宿所姓名をくばしく書て置きたした故若しも反對の論者あれば御書面なり何んなりて御對論に預り度いです

終結に臨みまして申し置き升の私の日蓮宗の人々へ數々尋問書を呈しましたの未た一人をも其の答へを得ません一二の返信或は口述の答へはあれ共みな以て答へとするに足らざる者耳てす私の宜しく其の尋問書を記憶して居り升故爰に示して今日此會を閉つるの大團結と致し升

日蓮に對する尋問

第一 問云く南无妙法蓮華經の梵字梵音を示せ尤もサンスクリツ

ト法と悉曇法と両様共梵音は片假名を附すへし是れ即ち音韻の通則とも示せ又た梵字とは字形分釋と字相字義と連續義なり及び直譯義譯とも示せ

第二 問云く日蓮宗の本尊とし正行とし戒檀とするハ即ち南无妙法蓮華經の七字連續の語書なるへし而れば此の七字連續の語は一切經中何れに在りや書目並に銘文を聞かん

第三 問云く日蓮宗は教示的の宗教なりや學理的の宗教なりや若し學理的と云ハ唱題に依て成佛するの理由を示せ又た教示的と云ハ第二の問題七字連續の語佛説になきと云何するや

日蓮宗非佛教終

廣告

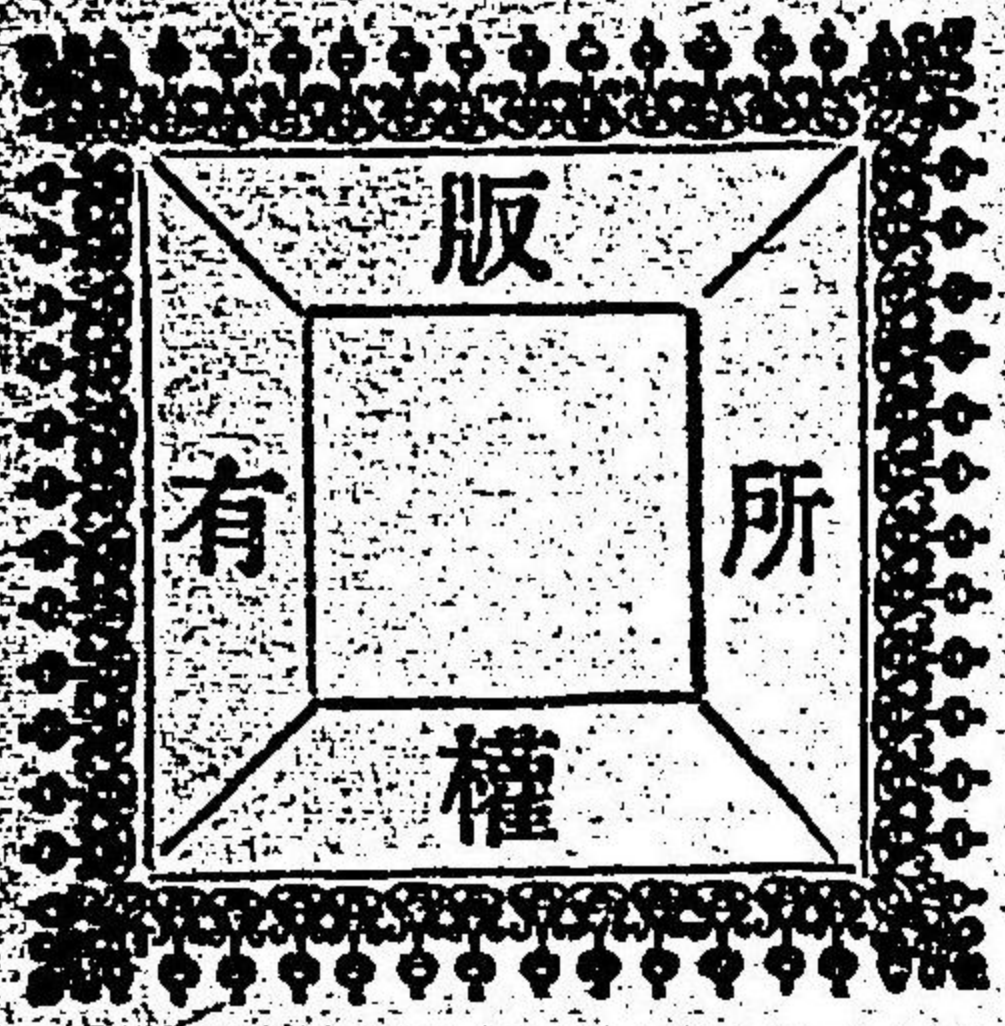
日蓮深密傳

全一冊 正價金十錢 郵税金二錢

日蓮の超群非凡ある佛教を判釋し佛教の極意を研
盡して一新機軸を發明し佛教各宗を踏躐したるは
古來人々の大い驚嘆する所あり故に日蓮宗の教義
及盛衰如何は信佛者大に注意を要すべき点あり日
蓮宗信徒は勿論各宗僧俗諸君は一掃して日蓮の密
傳を知れ

賣捌所 京都市 東六條 法藏館

明治廿七年八月二十日 印刷
同年同月廿四日 發行



尾張國西春日井郡平田村番外

編輯兼 發行者 高木顯明

京都市下京區間之町五條下
途師屋町四十二番戶

印刷者 田中直二郎

京都市東六條

賣捌所 法藏館

廣告

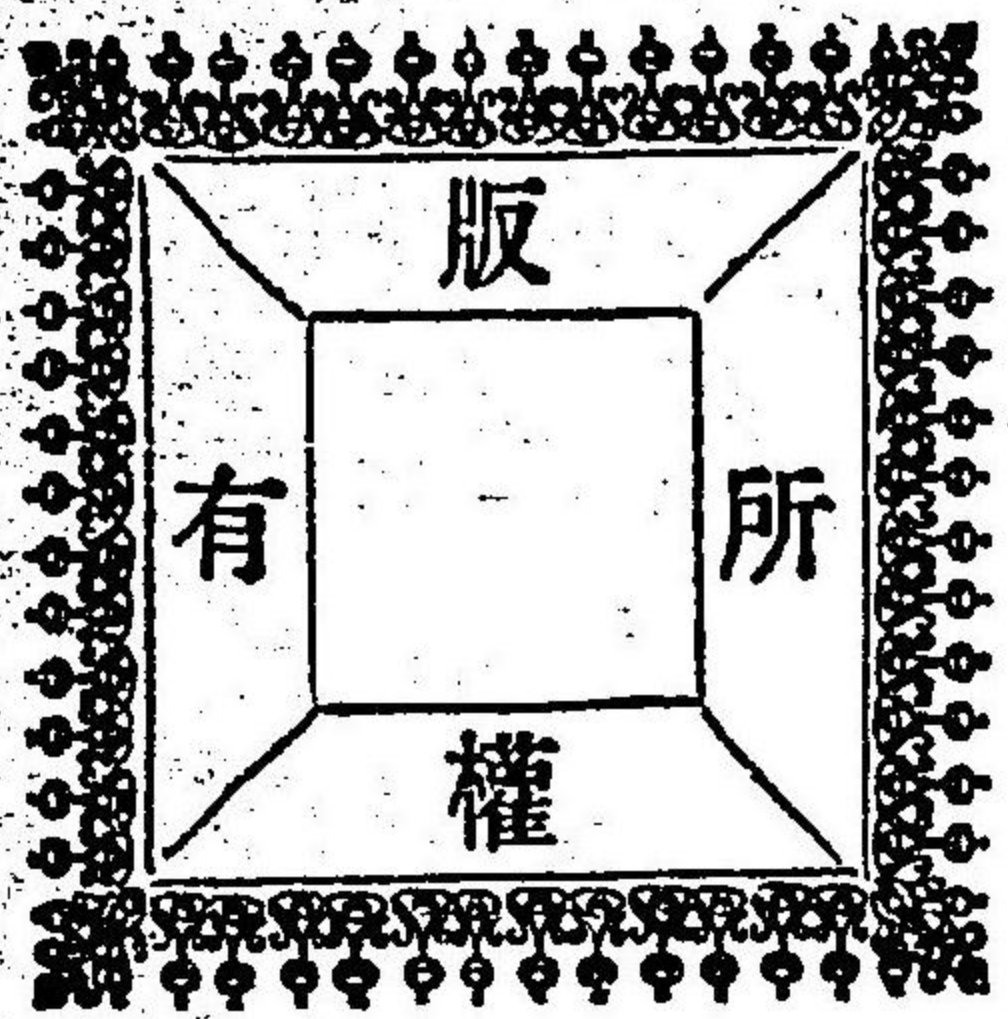
日蓮深密傳

全一冊 正價金十錢 郵税金二錢

日蓮の超群非凡ある佛教を判釋し佛教の極意を研
盡して一新機軸を發明し佛教各宗を踏蹴したるは
古來人々の大に驚嘆する所あり故に日蓮宗の教義
及盛衰如何は信佛者大に注意を要すへき点あり日
蓮宗信徒は勿論各宗僧俗諸君は一掃して日蓮の密
傳を知れ

賣捌所 京都市 東六條 法藏館

明治廿七年八月二十日 印刷
同年同月廿四日 發行



編輯兼 尾張國西春日井郡平田村番外

發行者 高木 野明

京都市下京區間之町五條下
途師屋町四十二番戶

印刷者 田中直二郎

京都市東六條

賣捌所 法藏館

